用語解説

■ア行■

一酸化炭素(CO)

重油やガソリンなどが不完全燃焼した場合に発生する無色無臭の有毒ガス。自動車の排出ガスが主な発生源で環境汚染物質の一つ。

一般廃棄物

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に定められた産業廃棄物以外の廃棄物を指す。さらに、自治体の処理方法によって家庭系・事業系・もえるごみ・粗大ごみ・資源などに区分される。

エコマーク

生産から廃棄までを通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に付けられるマークで、公益財団法人日本環境協会が認定を行っている。

温室効果ガス

大気中の二酸化炭素やメタンなどの、赤外線を吸収し熱を地球に封じ込める温室効果のある気体のことをいう。地球温暖化の原因となり、京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素のほかハイドロフルオロカーボン（HFC)、パーフルオロカーボン（PFC)、六フッ化硫黄（SF6）が削減対象と定められた。

■カ行■

外来種

人間の活動によって植物や動物が移動し、それまで生息していなかった地域に定着し、繁殖するようになった種のこと。スポーツフィッシングなどのために放流されたオオクチバスや、ペットとして飼いきれなくなって捨てられたアライグマのように意図的に持ち込まれるケースと、輸入品とともに移動する種子のように非意図的に持ち込まれるケースがある。

また、海外ばかりでなく、日本国内の他の地域から人為的に持ち込まれた生物も外来種であり、「国内由来の外来種」と呼ばれている。観賞用のメダカが放流されて、在来種（もともと地域に生息していた種）のメダカと交配して遺伝子が変わってしまったり、北海道にはもともといなかったカブトムシが道外から持ち込まれ、他の昆虫と餌をめぐって競合したりすることなどが起きている。

いずれの場合も定着した地域の在来種との生存競争が起こり、在来種が絶滅に追いやられるケースも出ている。

環境基準

環境基本法に基づき国が定めた政策目標。人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準とされている。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)

地球温暖化に関する最新の研究成果を各国が共有するため、1988 年に国連環境計画と世界気象機関により設立された政府間組織。190 か国以上が加盟している。約 6 年おきに地球温暖化について評価した報告書をまとめ、公表している。

京都議定書

1997年12月京都で開催されたCOP3で採択された気候変動枠組条約の議定書。先進締約国に対し、2008～2012 年の第一約束期間における温室効果ガスの排出を 1990 年比で、5.2%（日本 6%、アメリカ 7%、EU8%等）削減することが義務付けられた。

協働

共同の担い手として、適切な役割分担のもと、協力して働くこと。互いに成果と責任を共有し合う、対等な協力関係が前提となる。

グリーン購入

商品やサービスを購入する際に必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを選んで購入すること。

光化学オキシダント、光化学スモッグ

光化学オキシダントは、大気中の窒素酸化物や非メタン炭化水素などが、紫外線を受けて光化学反応を起こすことにより生成される大気汚染物質で、光化学スモッグの原因となる。光化学スモッグは、目がチカチカする、頭痛がする、息苦しいなどの症状を引き起こす。

こどもエコクラブ

子どもたちが地域の中で、主体的に環境学習及び環境の保全に関する活動を行うクラブで、環境省が平成 7 年度から「こどもエコクラブ事業」として支援している。数人から 30 人程度の子ども及び助言などを行う 1 名以上の大人（サポーター）から構成される。

■サ行■

再生可能エネルギー

太陽光、太陽熱、風力、小水力、地熱、バイオマスなどの、繰り返し起きる自然現象から取り出すエネルギーのことで、資源枯渇のおそれがないエネルギーという意味。自然エネルギーとも呼ばれる。

産業廃棄物

事業活動に伴い排出される廃棄物のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」によって定められた、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類などの廃棄物をいう。

産業廃棄物の処理は、排出事業者が自らの責任で適正に処理することが義務付けられている。

市街化区域

都市計画法に基づく都市計画区域のうち、既に市街地になっている区域、及び概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

市街化調整区域

都市計画法に基づく都市計画区域のうち、市街化を抑制する区域。

循環型社会

廃棄物などの発生を抑制し、資源やエネルギーの循環的な利用や適正な処分を図ることにより、環境への負荷を低減するシステムを持つ社会のこと。

生態系

食物連鎖などの生物間の相互関係と、生物とそれを取り巻く無機的環境の間の相互関係を総合的に捉えた生物社会のまとまりを示す概念。

生物多様性

地球上の生物は、40 億年という長い歴史の中で環境に適応して進化し、3,000 万種ともいわれる様々な姿・形、生活様式を持った生物が誕生している。このように生物が多くの種に分化し、生物の間で様々な変異性がみられる現象を生物多様性といい、次の 3 つのレベルとして捉えられている。

・「生態系の多様性」：森林、湿原、河川などの環境条件の違い、国、地域などの地理的・気候的条件の違いなどによって様々なタイプの生態系があること。
・「種の多様性」：様々な種類の生物が存在すること。

・「遺伝子の多様性」：同じ種でも地域や環境によって持っている遺伝子が異なること。

生物化学的酸素要求量(BOD)

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標。似たような指標に COD があり、湖沼と海域では COD が用いられる。これは、水の流れと滞留の違いによる。

■タ行■

ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルをまとめてダイオキシン類という。物の燃焼に伴い発生し、人の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがある物質であることから、廃棄物焼却炉などのダイオキシン類発生施設に対する規制値や、大気、河川、地下水、土壌などの環境基準が定められている。

大腸菌群数

大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水中の大腸菌群数は、し尿汚染の指標として使われている。大腸菌群数は、検水 1 ミリリットル中の個数（正確には培養後のコロニー数）または、検水 100 ミリリットル中の最確数（MPN）で表す。

地球温暖化

大気中の二酸化炭素・メタン・フロンなどの温室効果ガスの濃度が高まることにより、地球の気温が上昇すること。地球温暖化がもたらす問題は様々かつ深刻で、海面の上昇による土地利用への影響、生態系の変化による農林漁業への影響、気候の変化による人の健康への影響、国際的な社会混乱などが懸念されている。

都市公園

都市公園法の第 2 条において定義されるもので、地方自治体が都市計画施設として設置する公園緑地、地方自治体が都市計画区域内に設置する公園緑地、国が設置する公園緑地を含めたもの。

■ナ行■

二酸化窒素(NO2)

窒素の酸化物。大気汚染物質の一つで光化学オキシダントの原因物質でもある。

工場や自動車などが主な発生源で石油やガスなどを燃焼したときに発生する。燃焼過程からほとんどが一酸化窒素として排出され、大気中で二酸化窒素に酸化される。人の健康影響については、せき、たん、呼吸器障害の原因となる。

二酸化硫黄(SO2)

硫黄酸化物の一つで、硫黄分を含む石油、石炭などを燃焼したときに発生するばい煙の中に含まれる。呼吸器を刺激し、せき、呼吸困難、ぜんそく、気管支炎などを起こす。また、酸性雨の原因物質でもある。

燃料電池車

搭載した燃料電池で発電し電動機を動かして走る自動車のこと。燃料電池は、燃料である水素と酸素を反応させて電気を作り出す発電装置で、水しか排出せず、二酸化炭素や大気汚染の原因となる有害物質を排出しないことからクリーンエネルギーといわれる。

農業集落排水

農業集落に設置される、地域し尿処理施設のこと。地域内の複数の家庭から排出されるし尿と生活雑排水を共同処理する。農業関連の事業により整備される。

農地転用

農地を農地以外にすること。農地の形状を変更して、住宅地、工場用地などに転換することを言う。また、農地の形状を変更せず資材置場、駐車場のように耕作目的以外に使用することも含まれる。

■ハ行■

バイオマスエネルギー

木や落葉、穀物、麦わら、家畜の糞など、生物（バイオ）を起源とする有機物をエネルギー資源とするもの。

微小粒子状物質(PM2.5)

大気中に浮遊している粒子状物質のうち、直径 2.5 マイクロメートル以下の微粒子のこと。車や工場の排ガスから排出されるものや、窒素酸化物などのガス成分から、光学反応により作られるものがある。吸い込むとぜんそくや肺がんなど人への影響が懸念されている。近年、中国において社会問題化している大気汚染の主要成分で、日本への影響も懸念されている。

浮遊粒子状物質(SPM)

大気中に浮遊している粒子状物質のうち、直径 10 マイクロメートル以下の微粒子のこと。車や工場の排ガスに含まれ、吸い込むとぜんそくや肺がんなど人への影響が懸念されている。

フロン、フロンガス、フロン類

正しくはクロロフルオロカーボンと呼ばれる数種類の炭化水素化合物で、毒性がないため、エアコン・スプレー・洗浄剤・消火剤などとして重宝されてきた。地球の成層圏（地上約 10～50km）まで上昇して化学反応を起こし、太陽光中の紫外線を吸収しているオゾン層を破壊する。

■ヤ行■

溶融スラグ

ごみの焼却などにより発生した焼却灰を 1,200 度～1,300 度以上の高温で燃焼、溶融させたものを冷却したガラス質の固化物で、近年、建設・土木資材として活用されている。

■ラ行■

リターナブル瓶

繰り返し何度も使用できる瓶のことで、一升瓶やビール瓶、牛乳瓶などがある。回収された瓶は、洗浄・殺菌されて中身が詰められ、再び商品となる。再利用されてごみにならず、原料や容器の製造にかかるエネルギーの節約にもなるため、資源循環の面からその価値が見直されている。

レアメタル

産業に利用されるケースが多い希少な金属のことで、非鉄金属のうち、埋蔵量が少なく産地が遍在することなどの理由から、産業界での流通量・使用料が少なく希少な金属をいう。レアアース（希土類元素）と呼ばれるものも含まれる。

レッドリスト

絶滅のおそれのある野生生物の種のリストのことで、国（環境省）や地方自治体（主に都道府県）などで作成している。レッドリスト掲載種の生態、分布状況、絶滅の要因などの情報をまとめたものがレッドデータブック。野生生物の保護や自然環境の保全の基礎資料として用いられる。